

私は緑風の郷でお世話になりました。トライやるで、心に残ったことは、職場の人たちに「どんな仕事でもひとつひとつがとても大切だ」と教えてもらったことです。トイレ掃除でも、洗濯物干しでも、ちよつと手を抜くといろいろな方が困ると教えてもらいました。「目の見えない方でも、しゃべりかけてあげたら、耳で聞いとんなるから安心して話してあげて」とアドバイスしてもらいました。目が見えなくても、心と心のふれあいが大切なのだとわかりました。「おじいちゃん、おばあちゃん、物忘れとかもあるから、同じことを何度も聞いたりしてこられるけど、おこらず答えてあげて」など、職員の方は優しく気を配っておられるのだからと感心しました。

今まで私は、何をすゝるにも、「みんなとないどダメ」「みんなと同じじゃないと不安」な人間でした。でも、トライやるの5日間を経験して、「挑戦していくことの大切さ」を学びました。「もし失敗したら・・」といつも行動する前に心配が先に立ってしまう私でしたが、失敗をこわがっていたら何もできない、何にでも挑戦したいと思えるようになってきました。これからは、一人の人間として自信をもって行動できる人になりたいです。



おじいちゃん、おばあちゃんたちにいつも優しく、笑顔で接しておられた職員の方々は、大切なことをたくさん教えていただきありがとうございました。本当にありがとうございました。

僕は市役所朝来支所でお世話になりました。

前日は、すごくうれしい気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。仕事をうまくやっていけるだろうか、あいさつは大きな声で言えるだろうかと不安もありました。

そして迎えた当日、とても緊張しましたが、担当の方が分かりやすく教えてくださり、不安だった気持ちはなくなり、今度はやれるだけやってみようという気持ちが出てきました。

作業では、マラソン大会の後片付けはとても大変でした。川のろ過設備の石積では、水がかかって濡れたりもしました。また、ヒル駆除にも行きました。



ました。駆除剤をまく時、風が強くて思うようにいかず、全身真っ白になりました。

大人の人はいつもこんな仕事をしておられるのだなあと、とても難しい仕事なんだと感じました。

また、とてもうれしいことがありました。それは一生懸命やったあとの「ありがとう」という一言でした。たった一言ですが、この言葉を聞くときたまやる気が出てきます。初めは不安と戦っていましたが、いつのまにかそれはなくなり、積極的にやろうとする勇気が生まれていました。

このトライやるで、仕事の厳しさ、楽しさ、そして支所の仕事の役割を学びました。

こんな体験ができたのは事業所の皆さん、先生方、PTAのみなさんのおかげだと思います。本当にありがとうございました。学校では学べなかつたことをたくさん学びました。この経験を大切にして、夢へ走り出していきます。

保護者のみなさんの取り組み

和田山中学校と朝来中学校ではトライやる・ウィークの期間中、2年生の生徒の保護者が中心となって、毎日、トライやる・ウィーク新聞を発行しております。

朝来中学校では中学校内に編集室を設置し、毎日、12人、14人が交代で数箇所の事業所を回って子供たちの様子を取材。午前中に取材を終えて編集に取り掛かります。

生徒の感想や保護者のメッセージを添えた新聞を作成し、生徒たちの仕事が終わる午後3時

頃までに協力いただいている全事業所に配布。生徒にがんばっている仲間様子を伝えていきます。毎日この新聞を読んでいる生徒は「他の友だちがどんな仕事をしているのか、よくわかるので励みになる。」と話していました。

また、保護者の方は「子どもたちが、大勢の方に世話になっているのだから、がんばらないといけないという気持ちになつてくれれば」と生徒たちと一緒にトライやる・ウィークに取り組まれている様子でした。

